



いったん星に合わせて、自動で追尾するシステムを搭載



慣れた手つきで望遠鏡を操作する松野さん

お城のそばの レトロ天体望遠鏡

丸亀城の眼前、生涯学習センター屋上に、天体望遠鏡があるのをご存じですか？この天体望遠鏡は、長きにわたって地元の天文愛好家たちを見守り続けてきたのです。

天体望遠鏡は 御年取って48歳

生涯学習センターの屋上、ドームの真ん中にドーンと構える天体望遠鏡。ここにこんなものが、いやそもそも生涯学習センターの屋上の天体ドームがあること自体を知らない人も多いのではないのでしょうか。

これは、現在の生涯学習センターが丸亀市総合会館としてオープンした昭和49年に設置されたもの。生涯学習の一環として、子どもたちに、星を見ることによって科学や天体に興味を持つてもらいたいという考えから置かれたものだということです。

現在、生涯学習センターの建物自体の老朽化が進み、解体が決まっています。建物を解体するにあた

り、天体望遠鏡の行先はまだ決まっていません。そんな状況の中、天体望遠鏡は静かに、最後の活躍の時を迎えています。

星のソムリエと天体望遠鏡との運命的な再会

四国初の「星のソムリエ」となった松野俊博さんは、昭和50年3月生まれ。天体望遠鏡とほぼ同い年です。

小学校高学年の時に、この生涯学習センター（当時の総合会館）で開催されていた天体観望会に参加。その時初めてこの天体望遠鏡と対面したことが強く記憶に残っていると話してくれました。

それがきっかけで、松野少年は天文愛好家になります。「大人になって入った天文クラブで



ここがドーム！



口径15cmの屈折望遠鏡。京都にある「西村製作所」製の屈折望遠鏡は相当珍しいらしい。モーターは「オリエンタルモーター」

丸亀市の天体望遠鏡の話になった時、『僕が子どもの頃に見に行っただけです。丸亀の天文クラブの人が操作して見せてくれたんですよ』と話す時、大先輩が『それ、俺だ』と。運命の人と再会できました」

その大先輩の縁で、なんと松野さんはこの天体望遠鏡を年2回の天文観望会で操作することになったのです。子どもの頃に天文への道をひらいてくれた天体望遠鏡との運命的な再会です。

天体望遠鏡に最後の輝きを

そんな矢先、生涯学習センターの取り壊しが決まります。松野さんは「これは、もっと多くの人にこの天体望遠鏡の存在を知ってもらわなければ！」と思ったそうです。松野さんは、生涯学習センター長に月に1回、天体望遠鏡のメンテナンスと観測会を行うことを提案。それが通った、「月を見る会」などが行われることになりました。

またこの天体望遠鏡の代わりとなる機材の必要性を関係者に訴えるなかで、今年2月に「丸亀天体クラブ」の設立に至りました。お城の前に集まって「月を見る会」などを頻繁に行っています。

「この天体望遠鏡が作ってくれた縁で、今の僕があります」と、松野さん

んは愛着のある天体望遠鏡を見上げました。

星を好きになるきっかけを作ってきた天体望遠鏡

「子どもの頃に好きだったことを、今も同じ望遠鏡でしていることが感慨深いですね」と松野さんは言います。

この天体望遠鏡は約50年、たえず同じ場所に佇んでいました。その間に、松野さんのような天文愛好家を生むきっかけになり、天文好きな子どもたちを見守り続け、現役最後の時を迎えようとする今、新しい時代の丸亀天文クラブを生み出して次世代につなぐ――。

丸亀の天文愛好家の文化を担う、とても重要な遺産だと考えます。天体望遠鏡のこれからも、見守っていきたいと思います。

みなさんもぜひ一度、このレトロな天体望遠鏡に会いに行ってみてください。

丸亀天文クラブ 今年の活動予定

11/6(日) 19:00~20:00

12/4(日) 19:00~20:00

場所／丸亀市生涯学習センター

その他の活動は
こちらから→
「星空への招待」



丸亀市生涯学習センター

丸亀市大手町2-1-20

0877-23-1091